



2割の病院で診療制限

医師不足対策 新たな奨学金創設

神田知事

九月定例県議会は二十五日、代表質問を行い、鈴木憲(自民)、水野豊明(民主)、渡会克明(公明)の三氏が県の行政や医師不足問題などをたずねた。神田真知事は、県内の全病院の二割にあたる六十二病院が、医師不足が原因で何らかの診療制限を行っているとの調査結果を示し、対策として医学生への新たな奨学金制度の創設を検討する考えを明らかにした。また、県が構想を練っている国際芸術祭を〇一〇年秋に名古屋市中区の愛知芸術文化センターを主会場に開催する方針を示した。

国際芸術祭 芸文センター主会場

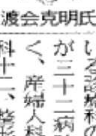
（石川浩 山本真嗣）



鈴木憲氏



水野豊明氏



渡会克明氏



代表質問

【医師不足問題】
医師不足による診療制限の現状を水野氏がたずねた。

「一院の休止」で十八病院に上り、「時間外救急の受け入れを制限」が十五、「診療科の休止」が十三、「分娩(出産)の休止」が七と続いた。何らかの制限を行って

いる診療科の内訳は内科が三十二病院と最も多く、産婦人科十九、小児科十二、整形外科と精神科十二、整形外科と精神科三だった。

神田知事は調査結果を示した上で、医師不足対策を強化する必要性を強調している。医師が対象の奨学金制度の早期創設を検討したいと述べた。

県医師会によると、新たな奨学金は、学生の学費や生活費を県が支援し、卒業後、県が指定する医師不足の医療機関に一定期間、勤務す

一部を負担する方向で検討しているという。国は〇九年度から全国の医学部の定員を増やし、増員分の医学生への奨学金創設を各都道府県に求める方針だが、県は「奨学金は」できた。早期の導入が必要と判断。来年度からの実施を目指すという。

【国際的な芸術祭】
神田知事は、本年度内に基本構想を作成するとした上で、一〇年秋に愛知芸術文化センターを主会場に初回を開催する方針を示した。

鈴木氏が、愛知万博開催や中部国際空港開港を挙げ、国際的な芸術祭がより、国際的な芸術祭が開かれれば、さらに多様な交流の展開が図られる」とし、検討状況をたずねた。

神田知事は「センターはわが国屈指の機能とノウハウを持つ。国際芸術祭の開催は、センターの果たすべき役割ではないか」と答弁。その上で「世界各地からアーティストや観客が訪れ、生き生きとした芸術創造活動が展開されれば県民どの

触れ合いも生まれる。愛知の魅力がますます磨かれる」とした。

【大規模小売店舗問題】
神田知事は、県内の「準工業地域」への一万平方メートルを超える大規模小売店の立地を、十月に作成するガイドラインで規制する方針を示した。無秩序な立地を防ぎ、地域の環境保全や中心市街地の活性化に役立てる狙い。鈴木氏への答弁。

【シミュレーション】
同タム建設に伴い、水没などでの移転が必要約白二十世帯の移転先について「設置町内の移転地確保や提示に向けて努力している」と述べ、移転地は町内を最優先とし、十月中にも提示する考えを示した。

ある準工業地域は、県内都市計画区域の12・6%を占めるが、工場や商業施設、住居などの建設規制はかからないという。このため、県は、新たな準工業地域を設定する場合は、都市計画法で規定する地区計画などを同時に定め、立地を規制。既存の準工業施設への立地についても、市町村が特別用途地区を定めて規制するよう協力を求める。

【シミュレーション】
数十億円とされる事業費への支援問題を含め「早期の実現に向けて産学と行政の合意形成に努めていく」とした。

【設置タム建設事業】
神田知事は、国による同タム建設に伴い、水没などでの移転が必要約白二十世帯の移転先について「設置町内の移転地確保や提示に向けて努力している」と述べ、移転地は町内を最優先とし、十月中にも提示する考えを示した。

【全国学力テスト】
今年四月に実施された全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の結果に、水野氏が質問。伊藤敏雄教育長は「一國の実施要領の通り、

以上の大規模小売店舗の出店は、事業者が早い段階での情報公開を要請し、地元商店街への協力計画などの提出を求める仕組みを来年四月から導入する」とした。